



2学期が始まりました

2学期始業はちょうど生徒会役員に代わる時期ですので、1学期の反省を基に細野中学校が変化できる節目の学期になります。終業式、始業式で生徒代表の皆さんが述べた反省や抱負を振り返りながら、大きく成長できる2学期にしましょう。



～1学期終業式 1学期を振り返って～

1年A組 三宅祐翔さん

忘れ物が多かったので確認したい。早寝早起きを実践したい。周りの人から信用されるために何事も一所懸命頑張る。1学期の学級委員長の役目が終わるまで責任感をもって全力で学級をまとめていきたい。

2年A組 森田涼花さん

個人的にはあいさつがきちんとできていなかったの、細野中学校の伝統であるあいさつをしっかりしていきたい。また、立腰の時に背中を曲げない、足の裏をしっかりつけることを意識したい。2学期からは2年生が中心的な立場になるので、伝統を引き継ぎ更により細野中学校を作っていきたい。



3年A組 小菜耀大さん

体育大会赤団団長として、自分を見つめ直すよい機会となった。テストへの向き合い方がよくなかったので2学期は3時間以上学習してテストに望みたい。反省は、できなかった自分を振り返り自分を変えるチャンスなので、ともに頑張りましょう。

生徒会代表 宮脇ころろさん

コロナ禍の中で、体育大会、生徒総会、定期テストなど真剣に取り組んでもらい生徒会も勇気ももらった。感謝したい。文化発表会は最高の思い出になるものを作り上げましょう。語先後礼のあいさつを今こそ細野中全員で徹底していきましょう。

ケーキの切れない非行少年たち(抜粋)

「ケーキの切れない非行少年たち」という本からの抜粋です。

学校教育でも家庭教育でも参考になると思います。朝の打合せの時間に、職員にも話をしたところでした。

”彼らが変わろうと思ったきっかけは何か？”を知ることは、教育へのヒントにもなると思います。

そこで、変わろうと思った彼らの実際の声を聞いて以下にまとめてみました。以下、「先生」とは少年たちの担任となる法務教官を指します。



○ 家族のありがた味、苦しみを知ったとき → 愛情・感謝

これでもかというほど非行をしてもそんな自分を見捨てずに毎月面会に来てくれる家族や、何百万という被害弁償に対しても何も言わずに働いて払ってくれている親をみて、もう二度と裏切りたくないという気持ちになった。

○ 被害者の視点に立てたとき → メタ認知

被害者の手記を読んで、もし自分の家族が被害者だったらって考えると、犯人をボコボコにしたい。自分のやったことが怖くなった。

○ 将来の目標が決まったとき → キャリア教育

今まで何をやってもできなかつたけど、将来やりたいことが見つかった。資格をとって頑張る。

○ 信用できる人に出会えたとき → 環境

先生は厳しいけど話を聞いてくれる。僕のことを真剣に考えてくれ、必要なアドバイスをくれる。

○ 人と話す自信がついたとき → アウトプット・対話力

社会では人と話すのが苦手だったけど、ここに来たら、人に頼んだり、お礼を言ったり、謝ったりしなければならなかったので、話すことに自信がついてきた。

○ 勉強が分かったとき → 成功体験

漢字が全然読めなかつたけど、ここに来て漢字のテストで(漢字検定の)級が上がった。新聞が読めるようになった。もっと勉強したい。

○ 大切な役割を任されたとき → 自己存在感

先生にはいつも叱られていて、先生は僕のこと嫌っていると思っていたけど、少年院の中で難しい係を任されて、信頼されていると気がついた。先生を裏切りたくない。

○ 物事に集中できるようになったとき → 非認知能力(集中力)

社会では全然集中できなくて勉強にやる気が出なかつた。病気だと言われていた。でもここで集中できるようになって勉強が楽しくなった。

○ 最後まで諦めずにやろうと思ったとき → 非認知能力

いつも途中で諦めて最後までやったことがなかつたけど、先生から途中で諦めたらだめだと言われ、最後まで諦めずにやったらできた。とても自信がついた。

○ 集団生活の中で自分の姿に気が付いたとき → メタ認知

先生から注意されている他の子を見ると、自分も昔はああだったのだと思った。どうして注意されるか分かった。